

環境保全活動

■既存杭を利用したマンション工事

都心部の建替えでは、既存の杭が新設建物の杭予定位置と重なる部分があるため解体撤去するケースが増えています。本工事は、旧建物の場所打ちコンクリート杭を有効利用して、新築マンションを建設した事例です。

発注者および設計者と協議して、以下の理由から新設建物に必要な杭の約半分に旧建物の杭を利用することに決定しました。

- ① 場所打ちコンクリート杭の解体撤去には多大なコストと時間が必要。
- ② 場所打ちコンクリート杭を撤去した場合、現状の地盤が緩む。
- ③ 杭の再利用は、資源の有効利用に合う。

本格的調査と施工を当社が担当し、既存杭利用に関しては健全性と耐久性について問題がないことを確認した後に施工を行ないました。



既存杭の調査状況

■地球温暖化防止へ向けた取り組み

2004年度から二酸化炭素排出削減に向けた取り組みを全社環境目標に掲げ、施工現場において、重機・車両のアイドリングストップや適正整備、建設発生土の現場内利用促進と運搬経路の最短化などに取り組んでいます。

二酸化炭素排出量原単位（施工高1億円当たりの二酸化炭素排出量）は下表のとおりです。

二酸化炭素排出量原単位（t-CO₂/億円）

2006年度	2007年度			
	全 体	全 体	土木工事	
			船舶使用なし	船舶使用あり
		建築工事		
62.6	60.5	(8.2)	(50.3)	(162.0)

（ ）内は参考値

算出方法

土木および建築作業所のサンプリング調査データから、全社ベースに換算した数値を使用しています。

■杭工事により発生する建設汚泥のリサイクル

防府駅前のホテル新築工事において、杭工事（節杭Hyper-Mega工法）の施工時にセメントミルクを注入しながら削孔することから、発生土は建設汚泥として、産業廃棄物扱いとなります。

当作業所では、90㎡の建設汚泥が発生しましたが、産業廃棄物の削減を目指し、建設汚泥のリサイクルを行なうため移動式の汚泥中間処理施設であるリテラ工法を採用し、汚泥を場外に搬出することなく中間処理を行なって、建設汚泥を理想的な改良土に再生しました。

場内で再生された改良土は、基礎工事完了後に埋め戻し土としてすべて使用し、リサイクルすることができました。



中間残土処理リテラ工法

■オフィスにおける環境保全活動

全員参加のオフィス活動における環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。2007年度、全社的に取り組んだ活動は下記のとおりです。

電力使用量の削減

- スイッチオフの励行
- エアコンの適正温度設定等（クールビズの実施）

紙資源の削減

- 両面コピー・使用済みコピー用紙の利用奨励
- 会議時のプロジェクター活用等（テレビ会議システム利用促進）

ごみの分別・排気ガスの抑制等

- リサイクルボックス利用の徹底
- 廃棄物分別ボックスの設置等
- 社用車の使用燃料削減
- 排気ガス抑制
- アイドリングストップ
- 省燃費運転の促進等